

回想… “ケンサ EXPO'09” 実行委員 本間裕一

去る 7 月 30 日～8 月 2 日の 4 日間、神奈川県横浜市のパシフィコ横浜で、一般国民向けに公開展示「ケンサ EXPO'09」が開催されました。これは、第 58 回日本医学検査学会および第 3 回 AAMLS 学会と同時開催されました。

「ケンサ EXPO'09」は、検査の展示紹介や検査体験を通じて一般の方々に医学検査への理解を広めていただくことを目的とした本邦初の試みとなりました。また企画名は一般の方に「検査」をもっと身近に感じていただくために、あえて「ケンサ」と表記しました。

今から約 3 年前、第 58 回日本医学検査学会会長より本邦初の「ケンサ EXPO」を神奈川県で開催したいと聞かされた時、我々は希望と共に大変な不安に襲われました。神奈川県は現在では各都道府県が積極的に取り組んでいるエイズ予防啓発キャンペーンの先駆けとして STD 撲滅運動キャンペーンを立ち上げた実績と自信はありましたが、「ケンサ EXPO'09」はそれとは規模が違うと感じたからです。それは、一般入場者数 5 万人を目標とし、広大なコンベンション会場を貸しきる壮大な計画でした。しかも結果的には世界同時不況下での開催を余儀なくされたのです。しかし、マイナスをプラスに変えるのが先輩たちから受け継いだ「じんりんぎ」の底力です。神奈川県内の若手技師が、自薦他薦を問わず次々と集められました。ワーキングでは、皆の「ケンサ EXPO'09」にかける情熱と、多くのアイデアが提出され、その結果、展示ゾーン、ケンサ体験ゾーン、アクションステージ、ワークショップなどの枠組みが決定されました。

さて、EXPO 当日。ワーキングメンバーのみで EXPO を運営できるはずもなく神奈川県下から多くの老若男女の臨床検査技師が実務委員として参加していただきました。ここで、うれしい誤算が生じます。本邦初の検査に特化した大掛かりな「ケンサ EXPO'09」がマスコミ各社に取り上げられたこともあり、沢山の予想を大幅に上回る、パニック的な人数の方々が EXPO に押し寄せました。開場 2 時間前からならぶ方々もおおり、開場時には 300 人程の列ができました。そして開場と同時にケンサ体験ゾーンに走って行くこうとする方々もおおり怪我の無いよう誘導するだけでも一苦労でした。各検査には最高 3 時間待ちの行列ができ、各ゾーンのリーダーを中心に実務委員の検査技師

が休む暇もなく働き続ける結果となったのです。ここで特記しておきたいことがあります。パニック的な働きにも関わらず実務委員が誰も文句を言わないのです。逆に「良い体験をした」「感動した」という言葉が多く聞かれました。皆、臨床検査に対する一般の方々の関心の高さに感動したのであり、また、若い技師がリーダーとなり EXPO を必死で運営している姿に感動していただけたのだと思います。我々は「臨床検査技師にはまだまだ力が眠っている」と改めて確信した次第です。

ここで「ケンサ EXPO'09」で実施された内容を簡単に説明します。

◆ 展示ゾーンでは、生まれる前から亡くなるまでの一生を 4 つのライフステージに区分し、各ステージに関わる検査を解説するパネルを作成し、検査の方法、健康を守るために検査を上手に活用する重要性を訴えました。

◆ ケンサ体験ゾーンでは、血液検査、血圧脈派、頸動脈エコー、体脂肪測定、心電図、骨密度など様々な検査を体験することができ、特に会場の一部を診療所として採血を行えるようにしました。また、一般の方々が普段は見ることのできない検査室の中を紹介し最先端の検査機器を展示しました。

◆ アクションステージでは、会場に特設ステージを開設し、手洗い講習、性感染症、糖尿病、寄生虫等、誰もが気軽に聞ける幅広いプログラムを企画しました。また、プログラムの合間には子供向けの「ケンサクイズ」など、子供から大人まで興味もてる内容で、ステージの進行から司会まですべて自分たちのアイデアが活かされました。

◆ ワークショップでは、子供ワークショップとして、心エコー体験、心電図体験、寄生虫顕微鏡体験、血球顕微鏡体験など普段経験のできない検査を子供達に体験してもらいました。子供達には実際に白衣を着てもらい、未来の臨床検査技師気分を味わってもらいました。また、妊婦さんの赤ちゃん 4 D エコー体験や A E D 体験なども実施しました。

今回の「ケンサ EXPO'09」の来場者延数は概算で 5 万 3 千名と当初の目標である 5 万人を達成することができました(開催前には 5 万人は夢の数字だったので)。さらに、ケンサ体験など、実際の検査場面が全国的にテレビで放映されたことで、広く一般の方々にケンサを身近に感じてもらい、医学検査への理解を広めていただく目標は、ある意味達成できたのではないかと思います。皆で知恵を絞りを、汗をかき、最後まであきらめない気持ちが不成功へと繋がったのだと思います。

最後に、米坂学会会長並びに諸先輩方が責任と引き換えに、私たちにチャレンジする自由を与えてくれた事に深く感謝い

たします。

また、世界的大不況の中 EXPO'09 に協賛いただいた企業の方々、実務委員として参加いただいた神奈川県臨床検査技師の方々、そして、実行委員や実務委員を送り出した間の職場を支えていただいた方々、日本臨床衛生検査技師会をはじめとする関係団体の皆さんに感謝いたします。「ケンサ EXPO'09」は臨床検査技師全員が作り上げた最高の祭典であったと思います。



こどもワークショップは家族まるごと健康管理のベースになる!

ワークショップ リーダー - 新宮千恵美

子供向けのイベントではありませんが、EXPO で伝えたかったメッセージは全世代に広がった実感があります。これは実際にやってみてわかった事です。ワークショップに子供たちを連れてくるのは両親、祖父母など様々でした。参加する子供たちに白衣を着せることで、子供たちも引率者も一気にイベントに集中し盛り上がりを見せてくれました。これは、非常に授業に入りやすいことでした。

ワークショップに協力していただいた技師は全員が講師となります。「この空間では子供たちにどれだけインパクトを与える事が出来るか、笑わせるかに挑戦です。日常業務の頭は壊していただき、講師が一番楽しむ事です。」とお願いしました。いざ授業を始めると子供達と共に引率者にもメッセージを送ることが出来る気がつき、即座に子供たちが実際に行った測定結果や観察している検体をモニターに映し、体の働き、検査の重要性、ケンサを身近に活用して家族全体の健康管理に役立てて欲しいとのメッセージを伝えました。

各授業とも臨床検査技師の認知度は、殆どゼロ。EXPO を通してここからがスタートであると確認できた次第です。こどもワークショップは全世代にメッセージを送るツールとなります。EXPO から広がる可能性を形にして、国民の皆さまの健康に対する意識改革に務めるのも臨床検査技師の役目なのかもしれません。

